

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立生野聴覚支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における情報保障の環境拡大及び学校アンケートによる満足度の向上 ・ICT活用がある授業数の拡大及びICT活用能力の向上
計画名	<p>見て、感じて、実現へ</p> <p>～聴覚障がい児への情報保障及び日本語力・学力・生活力の定着～</p>

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 学力の保障と向上</p> <p>1)ICTを整備・活用し、視覚を大切に「見てわかる授業」づくりを推進する。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 全教室に据え置き型の電子黒板を整備する。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 校内無線LANの教室への配備率を100%にするとともに、全教室にPCを整備する。 (現状50%)</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 全教科のデジタル教科書を配備し、ICT活用の授業効果を最大限に高める。</p>
事業目標	<p>『見て、感じて、実現』をするために、以下の対応を行う。</p> <p>① 主使用教室に取り付け型電子黒板、書画カメラの設置(全学年教室に1台以上設置)</p> <p>② 小学部、中学部の授業において、言語力を高めるために国語科のデジタル教科書を全学年配備。</p> <p>③ 小学部、中学部の音楽の授業において、「見て、感じて」が実現できるようにデジタル教科書を配備。</p> <p>その結果、「学校教育自己診断や授業アンケート等において、幼児児童生徒、保護者の「授業における満足度」の肯定率を平均80%以上、教職員の「ICT機器活用」の肯定率を90%以上、漢字検定の合格者数の向上。ICT活用能力、授業研究、教材開発において、教職員の聴覚障がい教育の専門性の向上。」を付加し、その実現をめざす</p>
整備した 設備・物品	<p>電子黒板機能付短焦点プロジェクター(壁取り付け式) 10台</p> <p>電子黒板機能付短焦点プロジェクター電子黒板(移動式) 3台</p> <p>書画カメラ10台</p> <p>デジタル教科書(国語・音楽) 国語9学年、音楽9学年</p>
取組みの 主担・実施者	<p>取組みの主担: ICT教育部(幼稚部 小学部、中学部)</p> <p>取組みの実施者: 小学部・中学部(国語科、音楽科、理科、技術科)</p>
本年度の 取組内容	<p>4月、アンケート調査を実施(対象は教員約100名、回収率100%)。整備したICT機器について、教員の活用状況及びそれらを用いた授業に対しての教員の受けとめを分析し、10月、全日本聾教育研究大会(北海道)でのICT分科会において発表した。</p> <p>12月、ICT公開授業を実施。府立学校、府下小中学校から25名参加。同日、大学教授を講師としてICT機器活用の拡大について研修会を実施(約100名参加)した。</p>

	<p>1月、近畿の聴覚支援学校、校区内の小中学校等を対象とした研修会を実施。小学部音楽科のICT機器を活用した取組みを発表した。(参加者約50名)</p> <p>3月、本計画の研究のまとめとして冊子を作成(200部)。4月以降、関係機関に配付予定。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>学校教育自己診断、授業アンケートより</p> <p>① 児童生徒及び保護者記入の「授業における満足度」の肯定率を平均70%に引きあげる。</p> <p>② 教職員「ICT機器活用」の肯定率を80%以上に引き上げる。</p> <p>③ 漢字検定⇒(小:6級、中:5級)合格率70%以上</p> <p>④ 音楽⇒小:全国ろう学校合奏コンクール入賞、わたぼうし音楽祭入賞をめざす。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 学校教育自己診断において、児童生徒は小学部78%、中学部89%が授業はわかりやすく楽しいと肯定的回答。……………小学部においては達成(○)。中学部は達成(◎) 保護者は、88%が「学校は子どもの課題にあった授業をしている」と肯定的回答。(◎)</p> <p>② 学校教育自己診断において、教職員(回収率100%)は86%が、コンピューター等の情報機器が授業などで活用されていると肯定的回答。……………達成(◎)</p> <p>③ 漢字検定について、本年度の合格者は、小学部では、4～10級を17名が受検し13名が合格。6級以上の合格率は70%……………(○) 中学部では、3～7級を17名が受検し8名が合格。5級以上の合格率は、46%……………(△)</p> <p>④ 全国ろう学校合奏コンクールは、銅賞。……………(○) わたぼうし音楽祭は1名入賞。……………(○)</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>3年間の本事業をふまえ、教員のICT機器活用のスキルを、授業において効果的に使用できるというレベルまで高めることができた。さまざまなICT機器を目的にあわせて効果的に取捨選択できるところまでスキルが上達した。</p> <p>次に取り組むべき課題は、「見てわかる授業」として、聴覚支援学校におけるICT機器活用術といった授業研究を重ね、効果的な活用方法を発見し、共有していくことである。</p> <p>目標未達成の項目は中学部の漢字検定合格率である。国語の授業の中で漢字の指導を重点的にできなかったことが原因と思われる。今後は、漢字指導にも重点をおき、ICTを活用し生徒の興味関心を高め、漢字力の向上をはかりたい。</p>